

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

7 (通巻11号)

平成14年6月30日発行

【目次】

こんなきました 参考調査課によせられたレファレンス - 農村家庭で購入した1年間のお茶とコーヒー代って?	1
こんなあります いちおしレファレンスブック 「国語に出てくる作品」を探せ!	2
こんなに利用されました! - 平成13年度業務実績 -	3
市町村のみなさんからの発信	5
札幌市中央図書館相談カウンターの設置について 札幌市中央図書館 武田雅史さん 道立図書館レファレンス体験研修に参加して 江別市情報図書館 斉藤寿子さん Librarian's Box(ししょぼこ)	
ステップアップのためのレファレンスビデオを見る - 道立図書館所蔵ビデオから	7
課員のつぶやき 日々の業務からの短信	8
News	9
貸出文庫にリクエスト 満員御礼!市町村図書館職員レファレンス体験研修、9月までの上半期日程埋まる 北海道立図書館移動図書館事業へ参考調査課員同乗 道職員の中堅職員研修に参加 ただいま、進行中「市町村図書館購入雑誌・新聞総合目録」(仮称)	
恵庭市立図書館 WebOPAC 公開	9
編集後記	10



北海道立図書館

069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

Tel 011-386-8521

Fax 011-386-6906

ホームページ <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス -

農村家庭で購入した1年間のお茶とコーヒー代って？

統計に関する質問は、レファレンスの代表的なものの一つです。調査名や調査機関名、調査の主題などがわかれば回答に行き着くのは比較的簡単なはずですが、時にはこんなことも…。

『都市家庭と農村家庭の1年間のお茶代とコーヒー代を知りたいのですが…？』

一瞬頭の中が真っ白になる質問でした。「どこでそんな調査している？」と。しかし、落ち着いてみると利用者の手には一枚のコピーがあり、そこに載っている二つの表の更新データがほしいとのこと。しかもその表には、データの出典も明記されていました。これなら…。

まず都市家庭の方の出典は、“総理府統計局家計調査全国平均”となっています。それで、「家計調査年報」の最新版で確認したところ、“(品目分類)表18表[都市階級・地方・都道府県庁所在市別一世帯あたり年間の品目別支出金額、購入数量(全世帯)]”にお茶とコーヒーがあり、最新データを提供することができました。

同じように農村家庭の方の出典は、“農林水産省農家生計費統計”となっていました。当館所蔵の「農家生計費統計」は平成2年版まででした。

最新データを探すべく「統計調査総覧 平成12年版」(全国統計協会連合会)を確認しましたが該当の調査を発見できず、「統計情報インデックス2001」(日本統計協会)にも見当たりません。年度を追って「統計調査総覧」を調べていくと、該当統計は平成6年に「農業経営統計調査(指定統計119号)」に整理統合され、現在は継続していないものと判明しました。

そこで、「農業経営統計調査」の内容を確認しましたが求めるデータの掲載はありません。「農業経営統計調査」の調査項目としては削除されてはいないのですが、未掲載となったようです。HPも確認してみましたが、該当調査結果は公表されていませんでした。

利用者には、参考として「全国消費実態調査報告第2巻 品目編その1 全国」(日本統計協会)に“世帯主の職業、世帯人員、世帯類型、品目別1世帯あたり1ヶ月間の支出”が掲載されており、その中に世帯属性として「農林漁家世帯」があること、消費調査の品目としてお茶とコーヒーがあることを知らせ、調査を終了しました。

最新データが必要とのことからすぐに最新版の資料にあたりましたが、統計は誌名変遷もさることながら、統合など内容変遷にも注意深くならなければと感じられる一件となりました。

<連載>

こんなのあります いちおしレファレンス・ブック

「国語に出てくる作品」を探せ！

教科書で読んだ作品を探しているという質問はしばしば寄せられるものの一つです。すでに、Do-Re で何回か取り上げた「日本教科書大系 近代編」(海後宗臣等編 講談社)では、明治時代から終戦までの国定教科書が復刻されていますし、「Do-Re No.4 (通巻 8 号)」では小学校の国語の教科書の作品を調査するツールとして「児童文学のある教室」を挙げています。

今回は、思わぬところに“こんなのあります”というツールを新発見しました。

「便利な文庫の総目録」(柿添昭徳編 文庫の会 年刊 1968 年 [1969 年版] ~ 1999 年 [1998 年版])

この資料は前年 12 月までに出版された文庫本(新書版文庫も含む)で、在庫のあるものについて、著者もしくはシリーズ別に構成されており、著作者名・書名作品名の索引が付いています。表題にはなっていない収録短編のタイトルも索引から引けるようになっていきます。

最近では収録短編のタイトルからもデータ検索ができるようになり、あまり使用することがなかったのですが、この資料には、現在発売されている現代国語(高等学校)の教科書および中学校の国語教科書(72 年版までは現代国語のみ)に採用されていて、文庫版に収録されている作品についての出典表が付いています。教科書別、さらに学年別に分かれており、教科書の作品調査のツールとして役立つ資料の一つです。

ただ惜しむらくは'99 年に休刊してしまったということです。類似資料として「文庫総目録」(福家書店 2001 年~)、「総合文庫目録」(総合文庫目録刊行会 1953 年~)などが出版されていますが、教科書の出典は載っていません。残念。

「ウィークリー出版情報」(日販図書館サービス 1982 年~)

選書の際に利用している図書館も多いと思いますが、毎年 4 月に「小学校国語教科書に出てくる本」が出版社ごとに何号かにわたって紹介されています。参考調査課では、

1987 年からの該当部分を複写して、ファイルに綴っています。また今年の 4 月に作成された「国語に出てくる作品 & 作家の本ブックカタログ」(図書館流通センター)も書店さんから入手しました。

書店さんにもらえるものは、ダメもとでもお願いし、手に入れたいものです。すぐ捨てないで取っておけば、りっぱないちおしレファレンスツールに変身します。もらえるものは何でももらおう(ただで)！という精神でこの不況を乗り越えていきましょう???



こんなに利用されました！

平成 13 年度業務実績

平成 13 年度の当課における参考調査件数は、23,054 件(前年比 4%減)でした。12 年度に引き続き調査件数は減少しています。

所蔵(館)調査に関して言えば、インターネット蔵書検索可能館が増加したことや検索環境の整備・充実により、各館での所蔵館調査が広範囲で可能になったことが要因と思われます。

しかし、“たかが所蔵調査されど所蔵調査”で書誌確定に時間がかかる資料が増えました。また、所蔵館調査については、昨年度も各館のご協力をいただきながら進めて参りました。しかしながら、どこの図書館でもありそうな資料が実は道内で見つからないということも多々あったように思います。全体の紹介数は減少した反面、インターネット環境の進展により利用者の情報源が増え、他県の専門的な資料や郷土資料が求められる傾向があり、道外館への依頼が増える結果となっています。

所蔵調査の有回答率は、前年度比 5%増となりました。これは、比較的新しい資料を中心に入手できる資料はリクエストとして対応したことによるものです。その結果、リクエスト件数は、Lis-Net 接続館の直接リクエストも含め、12 年度の 1,130 件から 13 年度は 1,659 件(前年比 47%増)となりました。

当館では、資料提供や紹介ができないという回答を減らすための手立てとして、きめ細かな調査を心がけるよう努めています。そのため、資料提供や回答に時間がかかることありますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

今年度は、当館の WebOPAC 及び道内市立図書館の購入雑誌総合目録を HP 上で公開することを予定しています。当課のサービスへの要求も変化していくのではないかとと思いますが、皆さんのニーズに合わせたサービスを提供していくことができるよう努めます。

平成 13 年度参考調査課業務実績

1 合計処理件数	23,054 件	(平成 12 年度実績 24,080件)
2 事項調査	2,178 件	(平成 12 年度実績 2,298件)
(解決)	2,058 件	(94.5%)
(未解決)	120 件	(5.5%)
3 所蔵調査	13,850 件	(平成 12 年度実績 14,408 件)
(所蔵有)	5,177 件	(37.4%)
(所蔵無)	8,673 件	(62.6%)
4 所蔵館調査	7,026 件	(平成 12 年度実績 7,374 件)

平成 13 年度参考調査受理件数(事項調査+所蔵調査+所蔵館調査)ベスト 30

1 札幌市	2,575 件	2 旭川市	2,127	3 北見市	1,137
4 滝川市	873	5 音更町	578	6 余市町	430
7 小平町	407	8 砂川市	392	9 伊達市	369
10 帯広市	368	11 函館市	363	12 白老町	329
13 江差町	324	14 由仁町	261	15 女満別町	243
16 網走市	234	17 斜里町	229	18 蘭越町	226

19 浦河町	219	20 中標津町	200	21 鶴川町	196
22 根室市	173	23 中頓別町	169	24 池田町	165
25 標津町	152	26 登別市	162	27 長沼町	160
28 美幌町	158	29 芽室町	154	30 三笠市	151

平成 12 年度ベスト 5 は？

1 札幌市	3,625 件
2 旭川市	2,116 件
3 北見市	1,377 件
4 滝川市	794 件
5 帯広市	637 件

平成 13 年度 注目！ 市町村！

所蔵調査件数急上昇！ 音更町、伊達市、由仁町

事項調査件数急上昇！ 由仁町、中頓別町、倶知安町

平成 12 年度の件数と比べて伸び率が高い市町村です

平成 13 年度所蔵館調査紹介先件数内訳

紹介件数合計 **6,635 件** (平成 12 年度実績 7,317 件)

< 内 訳 >

・道内公共図書館 **4,518 件** (平成 12 年度実績 5,543 件)

札幌市	1191	旭川市	747	江別市	561	苫小牧市	534	千歳市	275
北広島市	183	恵庭市	171	北見市	170	石狩市	139	釧路市	137
美唄市	11	網走市	64	留萌市	62				
その他	170								

清水町	30	栗山町	27	音更町	24	訓子府町	16	新十津川町	15	別海町	13
浦幌町	10	和寒町	9	女満別町	9	深川市	4	美瑛町	4	岩見沢市	2
長沼町	2	八雲町	1	浦河町	1	芽室町	1	幕別町	1	標津町	1

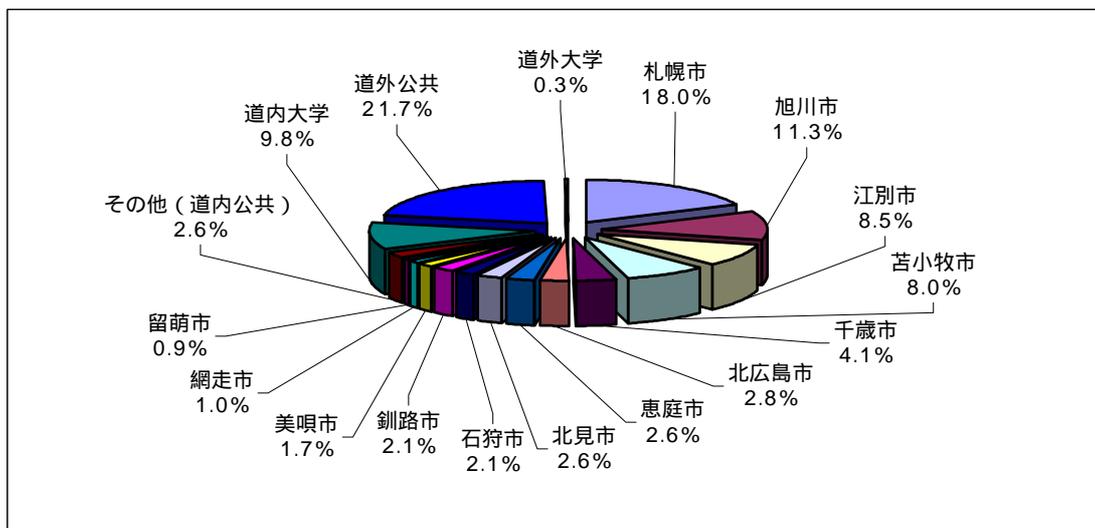
・道内大学図書館 **652 件** (平成 12 年度実績 786 件)

・道外公共図書館 **1,442 件** (平成 12 年度実績 978 件)

・道外大学等 **23 件** (平成 12 年度実績 10 件)

当館が他館を紹介した件数です。ご協力ありがとうございました。

平成 13 年度グラフにみる紹介先件数の割合



注) 道内市町村の場合、依頼された 1 冊 (1 件) に対し、自治体ごとに 1 件としています。
また、道内(外)大学及び道外公共図書館の場合は、複数館を紹介しても 1 冊 1 件としています。

市町村のみなさんからの発信

皆さん、ご覧になりましたか？ 4月25日の北海道新聞朝刊「卓上四季」欄では、図書館のレファレンスについての記事でした。その中で、今話題の図書（？）「まちの図書館で調べる」（柏書房 2002.1）や今年の3月から設置された札幌市中央図書館の相談カウンターのご紹介が紹介されていました。

そこで今回は、中央図書館の武田雅史さんに相談カウンターの設置経緯や利用者の方の反応などについての寄稿をお願いしました。

また、今年度最初のレファレンス体験研修は、江別市情報図書館の若きホープ齊藤寿子さんが受講されましたので、早速感想をお願いしました。

お二人とも、快くしかも迅速な原稿提供をしてくださいました。心より感謝します。

札幌市中央図書館相談カウンターの設置について

札幌市中央図書館業務課参考調査係 武田雅史さん

中央図書館では、今年3月から2階図書室に相談カウンターを設置した。

これは、現在重点的に推進中の中央図書館センター機能充実の一環として、2階図書室のレイアウトを変更し、混在していた貸出用資料とレファレンス資料を分け、それぞれのカウンターの分離によって「貸出」と「レファレンス」の機能分担を図ることを目的として行ったものである。



中央図書館建設にあたっての基本計画では、「成人・児童奉仕部門」と「参考調査部門」は、組織・スペースともに明確に分離することが想定されていた。

しかし、平成3年の建設時には、利用が多くかつ手間のかかる視聴覚資料や一般書の歴史・社会科学、外国資料等の貸出業務とレファレンス業務を2階図書室の1つのカウンターで行うこととなり、結果的には貸出業務に忙殺され、落ち着いたレファレンスサービスや内部研修の実施などは望むべくもない状況に置かれていた（らしい）。

しかしその後、参考調査係としての独立や開館時間の延長に伴う人員の増加もあって、数年前からは、視聴覚資料、図書、新聞・雑誌及び相談のようにサービス・カウンター窓口を区分してきたが、今回はそれを一歩進めてお互いが本来の業務に専念できるように、図書特別整理期間を利用して分離した。

周知については、館内ポスター掲示程度でまったく不十分ではあるが、質的に大幅にレベルアップしたわけでもないこともありPR方法に苦慮している。

相談カウンター自体は利用者動線上の分岐点にあたり、目立つために相談件数は確実に増えてはいるが飛躍的とまではいかない。相談している状況を利用者に見てもらおうことが一番の宣伝かとも考えている。

現状では業務用端末2台の他に、多様化した情報要求に応えるためインターネットとCD-ROM専用の職員用PCを配置し、試行錯誤を繰り返しながら新しいタイプの情報活用を図っている。

今後も「札幌市民に役立つ図書館」を目指し、地域に関する情報拠点を構築するために、郷土雑誌の記事索引の作成、貴重資料の電子化・公開等にも取り組む予定であり、11月の新電算システム導入に合わせて、電子化情報（インターネットとCD-R用PC）コーナーの設置に伴う利用者用手引き作成、職員自身の情報検索能力向上、情報提供方法・ガイドラインの検討が必要になっている。当係においては、これまで以上にマニュアル、ツールを充実させ、研修によるスタッフのレベルアップを図っていききたいと考えている。

道立図書館レファレンス研修に参加して

江別市情報図書館 斉藤寿子

5月28日、道立図書館のレファレンス体験研修を受講しました。

研修当日までの期間に、受講カリキュラムの打ち合わせなどがあります。この機会に何を学ぶべきか悩みましたが、以前実施したカリキュラムの中で受講したいと思うものがいくつか見付き、必修と合わせて6つのカリキュラムを受講することにしました。

当日、緊張しつつ道立図書館へ入ると、アットホームな雰囲気の中、スタッフの皆さんが温かく迎えてくださり、すぐにリラックスできました。



閲覧室での研修風景（右側が斉藤さん）

研修は、スタッフルーム（参考調査課）で行ったので、普段は目にする事の出来ない中の業務を肌で感じ、自然と気合いが入りました。

このレファレンス研修は団体形式ではなく個人形式で行われるもので、自身のスキルアップにも大きく役立てることが出来ます。そして、自由にカリキュラムが組み、当日の研修を充実した内容にしてもらえますので、受講する価値は大きいと思います。

今回受講して、自分のレファレンスに対して弱い部分が少し改善へと繋がったと思いますし、スタッフの方々からは、レファレンスに対する真摯な姿勢を学ぶことが出来ました。そして今までより道立図書館を身近に感じられるきっかけにもなりましたので、今後も上手く活用、利用してゆけたら最高だと思っています。

私自身、司書としての日は浅いですが、この研修を糧に、日々のレファレンスに向き合っていきたいと考えています。

<連載>

Librarian's Box (ししょぼこ)

ステップアップのためのレファレンスビデオを見る - 道立図書館所蔵ビデオから

「レファレンスサービス 図書館の達人 司書実務編」(全国学校図書館協議会 / 企画・監修 紀伊國屋書店 / 製作・発行 1995年 / 製作 27分)

1995年製作なのでインターネット関連については不十分ですが、それでもレファレンスの基本を知る格好のビデオと言えます。

レファレンスとは何か、レファレンス・プロセス(質問の受付から資料・情報の提供まで)、質問の種類(所蔵調査や文献調査など)、インタビュー技法、扱えない、答えられない質問とは、記録票やマニュアル作成などステップアップのために、などが余すところなく触れられています。

ここんところシェルパ齋藤症候群(?)なのか、メモをとったりフロアで一人で探す職員を見ていると、突っ込みを入れたいくなるシーンも。

このビデオは、“あなたの図書館だったらこういうケースではどうする”というように教材として見ることをお勧めします。

「新・図書館の達人 全3巻」(日本図書館協会〔ほか〕 / 監修 紀伊國屋書店 / 企画・発行 1998年 / 製作)

1: 情報基地への招待(26分) / 2: 文献探索法の基礎(24分) / 3: 情報検索入門(31分)

このシリーズは、大学の新生を対象にし、図書館の基本的機能やその有用性を知ってもらうことを目的に作られています。が、入門的な内容とともに具体的な資料がたくさん出てくるので、私たち公共図書館員が見ても違和感は全くありません。前述の「レファレンスサービス」でその基本を知り、このビデオで資料を知る、という見方ができるかもしれません。

1巻では、大学図書館内をツアーしながら、蔵書の検索方法、レファレンスサービス・相互協力、利用者の権利と義務など、図書館の基本的機能を紹介します。

2巻では、新聞・雑誌・図書の調べ方について、図書やCD-ROMを使って紹介します。新聞縮刷版や雑誌記事索引、出版年鑑など具体的に資料を紹介しているのでわかりやすい内容になっています。

3巻はデータベースを使った情報検索で、基本的な手順を踏まえて検索することが効率的であることを教えてくれます。

「はじまりはいつも図書館 全3巻」(全国学校図書館協議会 / 企画・監修 紀伊國屋書店 / 製作・発行 1996年 / 製作)

1: ようこそ学校図書館へ(22分) / 2: 本の探し方(20分) / 3: 辞書・事典の使い方(19分)

生徒が学校図書館に親しみを持ってもらい、かつ知る楽しさがぎゅっと詰まった場所であることを知ってもらう中高生のための「学校図書館利用指導」ビデオです。

3巻ともある高校図書館を舞台に淡い恋や謎解きがドラマ仕立てで進行しますが、ストーリーは結構むずがゆいものが…。2巻目に、昨年映画「Go」で日本映画賞

を総なめにした窪塚洋介君が出演していることを発見。これって、お宝映像かも。

「図書館へ行こう！ 全 5 巻」(日本図書館協会 / 監修 紀伊國屋書店 / 企画・発行 1999 年 / 製作) です。

1 : 子どもと歩く散歩道 (9 分) / 2 : 知りたいの味方 (10 分) / 3 : わが社のデータベース (12 分) / 4 : 本のある風景 (7 分) / 5 : 先生たちの本棚 (18 分)

私が最も心ひかれたオススメビデオです。それぞれ 10 分程度の短いものですが、“図書館ってどんなところ？”ということが、何気ない自然の会話や本の存在そのものが持つ力、などの中で語っています。

中でもオススメなのは、4 巻目。漆原宏さんのモノクロの写真、お年寄りを中心にただただ本や新聞やビデオを見ている。ただそれだけなのですが、図書館や本の持つ可能性を静かに語っているのです。言葉は不要、秀逸。制作委員(小川俊彦、常世田良、押樋良樹)のセンスを感じます。ああ～もっと語りたい…けど、紙数が…。

<連載>

課員のつぶやき 日々の業務からの短信

あなたのレファレンス・ライブラリアン度チェック！ すごくある ある 普通
一般的知識 正確さ 判断力 専門的知識 信頼性 礼儀正しさ
臨機応変 手練 配慮 仕事への興味 記憶力 好奇心 人間
への関心 想像力 適応性 根気 好感 協調性 体系的思考力
20 健康 21 創造力 22 勤勉 23 迅速性 24 物腰 25 我慢強さ 26 力強さ 27 几
帳面

ものの本によれば、レファレンス・ライブラリアン(“レファレンサー”は和製英語の由)の資質として、この 27 項目の特性が望ましいそうです(J. I. Wyer)。

さて、こんな人がいるのかしらん？こんなスーパーライブラリアンがいれば、拝みたいものだと思いつつ、自己チェックするもかなり苦しいものがあります。

以下の評定は、いささかふざけた解釈と独断専横(?)で、異論のあるところでしょうか。各項目で、

『すごくある』が半分以上のあなた 図書館員にはもったいない。転職をおすすめ。

『ある』が 20 以上のあなた 社会人・家庭人としてもリッチです。天職かもデス。

『普通』がほとんどのあなた 未来は明るい。ぜひ、図書館にいてください。

実感としては、記憶力および²³迅速性の低下は寄せ来る加齢によって如何ともし難いとしても、しかし、好奇心と健康は必須条件のように思われます。想像力と根気も大事な要件なのでしょう。さらに、一般的知識と専門的知識がプラスされればクリア。加えて、あとは…、あれっ！

果てしのない話でスイマセン。

出典 :1「シリーズ図書館の仕事 14 レファレンスワーク」(小田泰正編 日本図書館協会 1978)

2「新現代図書館学講座 5 情報サービス概論」(田村俊作編著 東京書籍 1998)

NEWS

貸出文庫にリクエスト

今年度に入り、読書会用 1 タイトル 10 冊セットの貸出文庫をリクエストにより、2 タイトル新規購入しました。今回は、それぞれ 9 冊ずつのセットです。

・「田舎医者」(見川鯛山 / 著 毎日新聞社 1974)

・「本日も休診」(見川鯛山 / 著 毎日新聞社 1979)

貸出文庫は市町村の図書館(室)のリクエストを受け、収集しています。

リクエスト希望は、資料課へ。貸出希望は、奉仕課へ。いずれも、電話、Fax で受付けています。

満員御礼！市町村図書館職員レファレンス体験研修、9月までの上半期日程埋まる

お蔭さまで、9月までの上半期日程が埋まってしまいました。こうなると早い者勝ち？下半期3月までの希望者は早目にご連絡ください。当課一同にっこり(…怖)お待ちしております。

北海道立図書館移動図書館事業へ参考調査課員同乗

既報のとおり、4月から課名変更となった市町村支援課の春期移動図書館事業が、5月の連休明けから始まりました。2コース目の“上川・十勝・釧路・根室”地域巡回(5月21日～25日)に金山が同乗しました。

各センターでの研究協議会では、図書館における著作権や提供したくない資料と知る自由との狭間での悩みなどが話題となりました。

金山にとっては、ついこの間までの古巣での仕事でしたが、そこはそれ参考調査課員としての自覚のもと、レファレンスや体験研修についてもしっかり宣伝してきました???

道職員の中堅職員研修に参加

当課のみならず当館の最若手、大塚が当館に採用になって早や4年。道庁別館での3日間の上記研修に北方資料室の西岡とともに参加してきました。

中堅と言われることに抵抗のあった大塚ですが、研修は即効性のあるものだったようで、日常業務の見直しや自己啓発を図ることなど、自覚ができたと言語する今日このごろです???

ただいま、進行中 - 「市町村図書館購入雑誌・新聞総合目録」(仮称)

これも既報のとおり、上記総合目録作成に向けて、6月までに市立図書館にアンケートをお願いし、ご理解・ご協力をお願いしていたところですが、大方の賛同をいただきました。ありがとうございました。

7月には、具体的に購入リスト作成のご協力をいただくこととなりますので、引き続きよろしく願います。

恵庭市立図書館 WebOPAC 公開

当課の所蔵館調査について、原則とする調査館 15 市(平成 14 年度現在)の一つである恵庭市立図書館が、WebOPAC(インターネット上の蔵書目録)を公開しました。

恵庭市立図書館に相互貸借の申込みをする際の必要事項は、書名(必要に応じて巻次、版表示)、著者名(多数著者の場合は 1 名のみで可)です。また、必要に応じて、新書や文庫の別などもご記入ください。

利用の多いものや予約のあるものなどは、貸出しできないものもありますのでご注意ください。申込みは FAX でお願いします(相互貸借専用番号 0123-39-6173)。

当課の所蔵館調査により同図書館を紹介する場合も、書名に続けて上記の情報を付記しますので、貸借依頼の際は忘れずにご記入ください。

編集後記

§ 今号は久々の通常号です。「市町村のみなさんからの発信」では、札幌市中央図書館の武田さんと江別市情報図書館の斉藤さん、お二人から原稿をお寄せいただきました。

締め切りより1週間ほども早く原稿をいただき、当課の職員も締切厳守と相成ったのは、異例のこと(?)。二重の意味で感謝いたします。ご協力ありがとうございました。

§ 今号の“**Librarian's Box**(ししょぼこ)”では、当館所蔵図書館ビデオの中から、レファレンスサービスに関連深いものを選び、ご紹介しました。

頭をかきむしりたくなったり、再発見があったりなどと、様々でしたが、一人で見ても、同僚と見ても、はたまた管理職と見ても、きっとお役に立ちます。貸出しもしていますので、申込みは奉仕課まで。

ビデオでも言ってます。“図書館は奥が深いなあ～”と。納得です。



Do - Re (どうれ) の由縁

“ どうりつとしょかんレファレンス ” の略から名付けました。
しかしながら “ Do ! Reference ” とも
あるいは “ どれどれレファレンス ” からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do - Re

北海道立図書館レファレンス通信 7(通巻11号)

発行年月日 平成 14 年 6 月 30 日

編集・発行 北海道立図書館参考調査課

〒069 - 0834 北海道江別市文京台東町41番地

Tel 011-386-8521 Fax 011-386-6906

ホームページ <http://www.dokyojoi.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>
